

メンバー、ボランティア、学生  
みんな仲間!

平成 28 年 11 月号

# けやきと仲間 めーる



こころの病と闘っている人々と千葉大学生や周囲地域との協働の会 地域活動支援センター「けやきと仲間」  
平成 28 年 11 月 1 日(第 139 号)

## 千葉市障害者作品展



「黄いろ一ど」写真:齋藤 毅さん



ジェイコム千葉セントラル社長賞

「中国の友人陳長憶さん」

絵:糸日谷 敬一さん



10月7日の千葉日報で、「マンガでわかる障害者差別解消法」が紹介され、  
作画(右の4コマ)を担当した糸日谷さんの以下のコメントが掲載されました。

「障害を周囲に告白すると『たるんでる』などと心ない言葉をぶつけられ、多くの人が障害を隠すようになる。人々の障害に対する無理解をなくし、障害をオープンにできる社会にすればという思いを込めた」。

障害があるからと言って断ったりするのではなく、まずその人がどのような人なのかをきちんと理解するようにしましょう。

## ～ディライトフル・フェスティバル～

### !ソフトバレーの部 準優勝!

クーベルタン男爵の名言である「勝つことではなく参加することに意味がある」を思い出し、今回の大会は準優勝でしたが、おおいに胸を張っていいと感じます。

(今年も監督を務めたスタッフの切替さんからのコメントです。)

この1年の間、5回ぐらいしか練習に出られませんでした。早番と遅番の仕事の合い間の練習って、結構大変でした。毎回、母親にスポーツセンターまで送ってもらったけど、いつも大幅な遅刻でした。

それでも、女性参加者が私ひとりだったので、2試合連続で出場しました。2試合目の時に、私のサーブが決まって連続で点数が取れたり、レシーブが出来たりして練習の時以上の結果が出せたので楽しくて、嬉しくて涙が出ました。

準決勝の3試合目に入るときに「交代しましょうか」と聞かれた時に「大丈夫です」と答えました。でも、途中で交代を告げられました。正直言ってホッとしました。休憩がなくて、本当は疲れていたのです。

昼食後の決勝戦は、ベンチで応援しました。一点差の準優勝は残念でした。でも個人的には幸せなフェスティバルでした。

(Mさんより)

キャプテンの下村さんのコメントは、「あきらめるなんて、死ぬまでないから！」でした。

それから、梨、リンゴ、ミカンなどのたくさんの差し入れを家族の方などから頂きました、ありがとうございました。



応援席は、家族の方たちの語らいの場でもありました。

川柳

届いたぜ応援団の感情が  
再開だパン販売と花植えが  
幻聴が面白ネタを提供す  
引きこもり脱出できたカラオケで  
待ちました君の歌声聞ける日を  
自己流なフォームで目指すハイスコア

再開したパン販売と同時に花壇の整理も……。春が楽しみです。

